

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600277		
法人名	三井ヘルスサービス株式会社		
事業所名	グループホーム安平の郷		
所在地	勇払郡安平町安平675-16		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人の思いに添ったケアを心がけています。月間行事や散歩等で外出機会を多くしていく様心がけ、ホームにいても地域の方や外の空気に触れられる様支援しております。職員は、利用者様と家族のように接する事で、家庭的な雰囲気を提供し、明るく楽しい生活を送って頂ける様心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600277-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24年 12月 21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームを運営する三井ヘルスサービスは民間企業として北海道で初の訪問入浴サービス事業を開始した法人であり、安平の郷はデイサービス併設型としては2番目に町の公募により開設しています。ホーム長はこれまでの経験で培ったノウハウを最大限活かす運営に取り組み、利用者及び家族の安心と満足の確保やケアサービスの水準を一定以上に維持する職員育成に力を注いでいます。運営推進会議は貴重な情報が集まる場として、そして地域や関係機関との協力関係を発展させる場として開催されています。開設一年半の短期間で小学校や町内会等と行事等を通じた相互交流が行われています。また、個別の外支援助にフットワーク良く取り組むなど利用者の豊かな生活を実現しています。職員は、利用者の言動の背景などを察するよう心がけ、日々の気づきを共有し合い支援に繋げています。年に2回の家族交流会の他、家族参加型の行事活動を今後も多く取り入れていく意向を示すなど、利用者や家族の絆を大切にしながら共に利用者を支えて行くより良い関係作りを目指す様子も窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、実践に努めている。	地域密着型サービスの意義が盛り込まれた、運営法人系列グループホームと同じ理念を標榜しています。新人研修、勉強会での学びや申し送り等の機会に理念がケアに反映されているかを確認するなどして意識づけを行っています。ホーム独自の理念作成を検討しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様も一緒に地域の活動に積極的に参加し、関係を構築している。又、管理者が地域の消防団に入団し、地域貢献に努めている。	ホーム祭りは、地元紙折り込みチラシで情報提供を行い、多数の住民参加の下、屋台やアトラクション等で賑わいをみせていました。住民からの野菜・花苗の「お裾わけ」もあります。小学校が運動会に利用者との競技を設け参加しています。踊り、読み聞かせ、歌手やプロレスラーなど、慰問やボランティアも多彩です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の認知症の講演に、管理者が講師として参加し、地域の方々に支援方法などを伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各有識者の方々からご意見を頂き、運営上のサービス向上に努めている。	2カ月に1度の定期開催に尽力しています。メンバーからは町内行事や各種イベントなどの情報が集まっており、安平町早来文化祭・ワイワイ祭り・神社祭など、利用者の外出行事等に積極的に活かしています。ペーパータオル移行や地域住民に会議室を開放するなどの協議も進めています。	ホームでは、より多くの家族に会議へ参加して頂きたい意向を示しています。テーマを工夫したり、家族会とも相談するなどして、会議の更なる推進に期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回は安平町役場に赴き、健康福祉課の方と相談しながら密な関係作りを行っている。	ホーム長が町主催の学習交流会で講師を務めたり、協力医療機関での町民向け勉強会開催に当たり、町と協働するなど、地域福祉の推進に取り組んでいます。町の担当部署へは毎月訪問し、担当者や保健師と情報交換を行い課題等を共有しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し、身体拘束を理解する様職員教育に努めている。又、実践を通し、身体拘束を行わないケアに努めている。	身体拘束廃止のマニュアルを整備しています。ホーム内で具体的な事例を交えた勉強会を実施しています。夕方、歩き出し始める利用者は、どのような想いになっているのか、また、安心できる状態を作るにはどのように関わると良いかなど、心情に寄り添うケアに努め、行動抑制を防止しています。	今後、「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」11項目をもとに勉強会を実施し、更に徹底理解を図ることとしていますので、職員の共有認識を図り、ホーム全体のものとなるよう期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会などにおいて学ぶ機会を作り、防止に努めている。管理者は、職員のストレスを把握する為、よく話す機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、理解できるよう努めているも、全職員が理解しているとは言えない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、管理者が十分説明する事で、理解が得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様の意見が反映できる様努めている。玄関には意見箱を設置し、ご家族様の要望を聞き入れていく様努めている。	利用者からの「お水が美味しくない」との意見に関しては、水分補給の観点からも美味しく飲んでもらう事を重視して浄水器を設置しています。また、「買い物を楽しみたい」という方には、好きなものを購入してもらおうお買い物ツアーを企画しています。外泊をさせたいので歩行困難な状態を何とか改善してほしいとの家族の要望を受け、介護計画に挙げて支援しその実現に至っています。	利用者や家族からの率直な意見等に対して、前向きに活かす姿勢や態勢に努力しています。ホーム長や管理者は、より多くの意見や要望を出してもらえるように、家族アンケートを実施したい意向を示しています。今後も家族等の意見がサービスの質の確保や向上に活かされるよう期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を通じ、職員の意見を取り入れながら業務の改善に努めている。又、管理者は職員からの要望を代表者に報告し、可能な限りの業務向上につながる改善に取り組んでいる。	利用者のリハビリテーション（痛みの緩和）の必要性等の職員からの提案に基づき、家族や医療機関と協議してその実施に至っており、利用者から身体が「楽になった」等の声が寄せられています。職員の要望によりホーム内備品類を充実させ業務環境の整備をしています。ホーム長は、定期の個人面談以外にも職員とよく話す事を大切に、運営法人代表者も現場に訪れて意見や情報を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業環境などを把握し、環境整備に努めている。ほぼ毎週1回、代表者と管理者が定例会議を行い、労務管理の情報収集及び環境整備について話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、ほぼ毎月勉強会を行い、職員が学びたい事や、管理者が伝えたい内容にて取り組んでいる。外部研修は、町内での研修機会が乏しく、町外の研修案内が送られてこないなどの理由により、現状はあまりいけない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内及び近郊の町のグループホームと密な関係を作りつつあるも、合同での勉強会などはまだ行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いを聞き取りながら、安心できる関係作りが行えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前の事前面談により、ご家族様の悩み・要望を聞き取り、ケアの実践に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各利用者様の状況を把握し、優先事項を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の能力を把握し、その方が出来る事、やりがいを見出し、お互いが尊重しあえる関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、ご利用者様の現状を毎月のお手紙やご来訪時、又お電話でお伝えし、理解して頂きながら、より良いケアを実践して行く為、ご協力を依頼し、一緒に支える場を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時間などは定めず、いつでもご利用者様に愛に来て頂ける環境を提供している。又、ご利用者様からご要望があれば、ご友人や馴染の場所にお連れする支援を行っている。	利用者が以前住んでいた住宅に荷物を取りに行きたいとの希望に応じて同行したり、利用開始前から通っている理容室や美容室への同行支援をしています。また馴染みの商店にお菓子や果物、仏壇への供花などの買い物支援をしています。友人が訪ねて来た時は、お茶などを出してゆっくり過ごして頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、皆様が関わり合いを持って生活が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様退去後も、ご家族様がホームに来られ、会話をするなど関係作りが出来ている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを、出来るだけ叶えていけるよう、思いの把握に努め、個別支援している。	利用者が何か不満を抱えている様子がある時などは、好きな茶菓を持って居室を訪問し、話を聴いています。また、言いたくも言えない方に対しては、話しかけを多くするなどして、些細な事柄を発見に繋げ把握するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談や、入居後の来訪時などにご家族様より情報収集し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録やアセスメントを通じ、一人ひとりの状況把握に努め、その方にあった生活を支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人の意見を取り入れ、又、職員が日々一緒に暮らす中で、気づいた事を反映させた介護計画を作成している。	担当職員はセンター方式の「私の姿と気持ちシートや24Hアセスメント纏めシート」を活用しています。毎月のスタッフミーティングで月毎の総評と今後のあり方等を検討したり、定期評価も含め、丁寧なモニタリングを実施しています。家族と本人からその都度意向を確認し、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を通し、申し送り時やカンファレンスの際に情報を共有しながら実践や介護計画見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者様の生活状況に合わせ、必要と思われる支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、利用者様が楽しむことが出来る様支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望に沿った受信支援を行っている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望で決定し、状態に応じて送迎などの受診支援をしています。町内外の医療機関と連携し、日常の健康管理で看護師が把握している健康情報を主治医に情報提供される体制を整えています。さらに家族へ健康状態や受診結果などを報告し対応を相談しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の弊社看護師による健康チェックの際に、職員は最近の状況や、受診時の報告などを行い、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の受診を通し、医療機関との関係作りに勤めている。又、入院時も定期的にお見舞いに行き、医師や看護師に状況を聞き、ご家族様とも連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化対応の指針についてご家族様に必ず説明を行っている。又、重度化、終末期が来た際は、ご家族様・医師と話し合いの場を設け、ご本人ご家族の意思を再確認し、支援するよう努めている。	重度化した場合の対応指針を文書化し、入居契約時に家族に説明しています。重度化した場合には本人や家族の意向を聞き、医師、看護師などの関係者で協議し、希望に添うように努めています。地域の医療状況としては往診体制が取れないため、看取りケアは取り組めない状況にあります。現在、看取りの体制整備・指針作成を検討中です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行い、緊急時対応の研修を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、災害時の対応を職員に教育している。町内会長や、地域の消防団の方と運営推進会議を通じ協力体制をお願いしている。	日中、夜間想定下で火災避難訓練を実施しています。安平町消防署主催の秋の火災予防運動の啓発活動（煙体験等）が地域住民参加の下、当ホームで行われました。災害時における協力者の具体的な役割については、利用者の一時的な安全確保についてお願いをしています。	火災以外に想定される災害の訓練や対応方法及び災害備蓄品の確保の充実を図っていく考えを示しています。地域防災の視点も有しながら、運営推進会議や関係各団体等とも協議を持ち、更なる災害対策の強化に期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重した対応、声掛けに努めている。	年長者である利用者に尊敬の念を持つ事や感謝の気持ちを表すことにより、慣れ合いによる対応とならないよう心がけています。また、選択し易い声かけを工夫して自己決定をして頂き、尊厳を守る支援をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ずご本人の言葉や思いを傾聴し、自己決定できるよう声掛け支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを重視し、一人ひとりのペースを出るだけ守りながら、生活して頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを聞きながら、身だしなみの支援を行っている。一緒に買い物などにも行き、ご本人の希望の商品を購入できる支援にも努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方の好みを把握したり、希望のメニューを取り入れる支援をしている。又、出来る範囲での調理や片づけを利用者様と一緒に行うことで、やりがいに繋げている。	食材購入時に利用者の意向を聞き、職員が献立しています。畑の収穫物を食卓に出したり、「お裾わけ」の野菜で漬物を作るなど、利用者も一緒にできるところで作業をしています。誕生日はレストランの特製弁当やオードブル、ケーキなどを家族と一緒に楽しむ事もあります。鍋パーティーや外食、出前、行事食等、日々の食事に変化を付けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎食一人ひとり生活記録に記載し、増加・減少していないか把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、自立で出来る方は見守りし、援助が必要な方には口腔ケア介助を支援している。又、自立の方に関しても、定期的に職員が口腔内を確認し、清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握しながら、失禁回数が減少するよう排泄誘導に努めている。又、排泄のリズムを把握し支援したことで、オムツを外し、下着での生活が出来る様になった利用者様もいらっしゃる。	排泄チェックは排泄が自立していない方を基本としています。排泄の声かけは、本人の耳元で他者に気づかれないよう羞恥心に配慮しています。夜間排泄の状況をアセスメントして課題を分析したり、夜間のふらつきや負担感を軽減するために車椅子での移動やポータブルトイレを使用するなどしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動（体操や散歩）や、水分量のチェック、食物繊維を多く摂取する食事メニューを提供しながら、便秘呼ぶに努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回以上提供しているが、時間や曜日がある程度決まった中で提供しており、必ずしも一人ひとりの希望に合った支援とはいえない状況である。	『浴室から笑い声をだそう』を合言葉にしたり、入浴の支援は本人の想いを聴き出す一番の場面であるとしています。日曜日以外の日に毎回3名ずつ入浴しています。「お誘い」は職員を替えたり、冬場浴室の冷やっと思を防ぐなど、快適な入浴となるように配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況や休息する時間を個別で捉えながら、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員介助の下、安全な服薬支援を行っているが、職員全員が薬の目的や副作用を把握しているとはいえない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動や生活の中でのお手伝いを通し、一人ひとりの役割を楽しみながら行えるよう、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に、出来るだけ沿った外出支援を行っている。又、ご家族や地域の方と連携を図りながら、その方が行きたい場所へ行ける支援に取り組んでいる。	散歩やドライブの他、秋・探索ツアー、とうきび狩り、みんなでGOGO外食、ダム植樹祭など、ユニット単独、または合同で利用者に楽しんでもらえる外出を企画し出かけています。3町グループホーム交流会は利用者も参加しました。日本シリーズの観戦や買い物同行など、希望に沿った個別の支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら、ご本人が扱える金額をご用意していただき、そのお金で定期的に買い物支援を行い、希望に合ったものを購入して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙を希望される方への支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、居心地がよく、落ち着ける雰囲気ですごせるよう、環境づくりに取り組んでいる。又、季節に合った張り物や植物等を飾ることで、季節を感じられるように工夫している。	玄関ドアは格子状の引き戸で和の趣があり、出入り口が広く、ユニットのドアも硝子仕様で開放感があります。玄関にセンサーはなく、気になる音はありません。一方のユニットは天窓から陽が射し込む作りです。リビングは季節行事の飾り付けがされていたり、思い出の写真が掲示されていました。洗面台は車椅子対応型で、リビングのすぐ目に入る位置に設置されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、利用者様全員が安心して会話やを楽しんだり、ゆっくり過ごせる環境であり、常に居心地の良い場所であるよう、職員も動きや話し声の大きさに注意しながら一緒に過ごしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様には使い慣れた物を持ってきて頂くようお願いし、実際そのような居室作りに取り組んでいる。又、ご家族様やなじみの方との写真や、ご本人が作成した作品などを展示し、居心地の良い環境づくりに努めている。	居室入口には、写真や装飾を施した職員手作りの表札を掲げ、自室と分かる工夫をしています。照明の点灯がし易いように紐を長くしたり、ベッドにサイドバーを置き、寝起きが安楽にできるようにしています。設えは、本人や家族と相談しながら、使い勝手や身体機能に応じた環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況や認知症状を考慮しながら、自立に向けた環境づくりに取り組んでいる。廊下やトイレ等の各所に手摺を設置し、出来るだけ自立歩行できるような環境を整えたり、ご自身の居室であるとわかる様な工夫をしている。			